

たてしな だより



令和 6 年 1 月 1 日

第 123 号

● 発行者

障がいのある人達の生活の家

たてしなホーム

長野県北佐久郡立科町塩沢 333-1

TEL 0267-56-1802

FAX 0267-56-1920

E-mail bdh20aab@janis.or.jp

http://www.janis.or.jp/users/bdh20aab/

新年を迎えて

新年明けましておめでとうございます。旧年中は、皆様のご厚情を賜り心より御礼を申し上げます。法人役員（理事 7 名・監事 2 名）・職員・世話人（77 名）一同、障がいのある方達の福祉に最善をつくしていく所存です。本年も格別のご配慮をお願い申し上げます。

再度取り組んでいる「たてしなホーム」の移転改築について所轄庁との具体的な交渉を 2 回実施することができました。移転場所を確定できれば具体的な対応を検討してまいります。支援の状況は、高齢化・重度化に対応したリスクの高い利用者支援に柔軟に対応していきます。男性看護師が採用でき施設医療体制も充実し、より細かな通院等の体制が確保できました。また、感染防止対策を進めながら来園日と帰省が実施出来ました。徐々に広げながら安全な活動を進めます。たてしなホーム施設入所支援（夜間と休日の支援）28 名、生活介護（日中の支援）47 名、グループホーム（7 つの共同住宅）28 名、基準該当放課後等デイサービス事業（立科町の児童福祉法事業）6 名の方達が利用しています。

たてしなホームが障がいのある人達の生活の拠点として、総合的な福祉サービスの提供が図れるよう最善を尽くしていく所存です。これからも変わらぬご支援をお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

令和 6 年 1 月 1 日

社会福祉法人しらかばの会
理事長 山浦俊一障がいのある人達の生活の家
たてしなホーム・しらかばハイツ
利用者・役職員一同

しらかば班旅行

午前中は遊園地で遊び、午後は動物園に行くという懐古園を満喫するプランです！遊園地では楽しく乗り物に乗る方や「こわい…」と言ってほとんど乗れなかった方もいましたが、職員と一緒に楽しい時間を過ごす事が出来ました。午後の動物園でも動物をゆっくり見ている方もいれば、動物より枝むきに一生懸命な方もいて、しらかば班らしい自由さがありました。

お昼は『カフェみまき苑』に行ってカレーやハンバーグを食べ、おやつには『カフェベジラボ』に行き、大きなシフォンケーキを食べました。こんなに食べても大丈夫かな？と心配する職員をよそに、皆さんペロリと平らげていました。

天気を心配していましたが、とっても暖かく旅行日和な一日でした。来年はどこに行きますか？来年も皆で楽しい旅行に行きましょうね。

宮澤



農林班旅行

農林班一泊温泉旅行に行ってきました。

園を出発してまずは昼食。佐久市のレストランで和洋中なんでもそろった写真付きメニューの中から自分で食べたいものを選んで注文、食後にはデザートもコーヒーも追加です。満腹になったあとはボウリング！何年ぶりでしょうか、感染症の影響で皆でボウリングができるのは久しぶりでした。ボウリングは、バンパーレーンやボウリングすべり台を使用すれば全員で楽しむことができます。ストライクも続出、自然とハイタッチ、ハイ笑顔、想像以上の盛り上がりでした。

楽しい余韻に浸りながらもちづき荘へ、温泉と宴会とカラオケ…独唱あり♪デュエットあり、そして恒例の卓球大会。ペアを組んで全員で対戦です。どうしてこんなにおかしいのか？笑いの理由はわかりませんが、なぜか皆さん笑っています。卓球？珍プレー・好プレー。美味しい食事のせい？お酒？温泉の効能？つられ笑いにご注意を状態です。

二日目は群馬サファリパークへ行きました。目の前のライオン、ホワイトタイガー、私たちのバスを行かせてくれないシマウマも印象的でした。たくさん笑って皆さんといることの楽しさや良さを感じた感謝の二日間でした。またお願いします。ありがとうございました。

大澤



ふれ愛むら

話し合い、決定する事がたくさんある事に気付かされました。

当日は良い天気恵まれ、暖かい1日でした。【こ豆ちゃん・陶器の皿、湯呑、マグカップ・手作りコースター】を販売しました。『この柄かわいいね。色合いがきれい。これはお皿だけじゃなくてアクセサリー入れてもいいよね。こ豆ちゃん知ってる、おいしいよね。毎年マグカップ買ってるんだ。毎回楽しみにしているよ。』

たくさんの言葉を聞く事ができました。直接販売する事のメリットですね♪

手作りした作品が売れていく所をみた利用者の方も、得意げ自慢げに教えてくださいました。たてしなホームが地域に馴染んでいるのだなと感じます。

とても楽しい1日でした。また来年、たくさん売れるといいな～。

榊野



町文化展

11月3日～5日に町の文化展が開催されました。芸術の秋にふさわしく、沢山の作品が展示され、多くの方が見学されていました。

多数の出展作品の中に、たてしなホームの皆さんの絵画や陶芸、手芸作品等の出展もあると聞き、心を弾ませ見学に・・・天才!?!を思わせる、才能や個性を存分に発揮して仕上げた作品。時間を掛け、丹精込めて仕上げた事を感じさせる作品等が展示されており、多くの方々が足を止め、作品に寄り添い、心の栄養補給をされたことでしょう。

また、一緒に見学しながら、自分の作品が展示されているのを目にし、照れくさそうにされながらも、嬉しそうに、誇らしげな表情をされていたのがとても印象的で、『次回作も期待出来るぞ!』と確信しました。

この文化展に向け、作品作りに思いを込められた方も、作品にふれる事で心を刺激された方も、皆さんが芸術の秋を満喫されたように感じます。

吉田(美)



秋の作業

10月14日に秋の作業が行われました。今回も協力会の皆様と職員のみで作業を行いました。南斜面・園周辺の草刈り、新館避難経路及び周辺の整備、外回りのすす払い、遮光ネット巻き上げ（デイルームベランダ以外）花壇の整備、竹の整備等、普段の職員だけでは出来ない作業を一緒にやって頂き、本当にありがとうございました。また、今回はアフターコロナということもあり、畑での焼きいも大会を復活させました。利用者さんにも多数参加していただき、焼き火を見学したり職員と一緒に火に薪をくべたりする方もいらっしゃいました。



今回の昼食は「ハロウィン弁当」でした。ジャガイモのスープは農林班のじゃがいもを使用し、カボチャサラダはしらかば班のかぼちゃを使用しています。利用者の皆さんにも好評で「とても美味しい」との声が多数ありました。



来年も楽しい行事になるように頑張っていきたいと思います。 竹内

クリスマス・正月飾り

感染症に怯える日々ですが、皆さんが楽しみにされているクリスマス会を無事に迎える事が出来ました！感染対策を考え各班室へ移動して頂いた後、各班にサンタさんとトナカイさんに仮装した施設長と副施設長がコーヒーとバー

ムクーヘンのプレゼントを届けに来てくれました。皆さん、サンタさんたちに戸惑いながらもプレゼントを頂き喜ばれている様子でした。

お正月飾りは、協力会の皆さんと担当職員でしめ縄と門松作りをしました。協力会のお力添えもあり素敵な門松が完成し、玄関に飾ることが出来ました。

今年最後のイベントを利用者さんも職員も笑顔で楽しく過ごせました。 神津



職員コラム

カラーにあこがれる

「今までにみた夢」について話してた時。みんながそれぞれにすべらない話をぶち込んでくる。夢だからなせるイレギュラーなストーリーの数々に圧倒されてるうちに自分の番がきてしまった。これといった夢を思い出せず、何となく「覚えているのはいつも白黒の夢」と言った時、少し場がざわついた。

白黒の夢を見る人の割合は少ないそうだが年配の方に多く、ほかストレスや左脳派など、検索するといろいろと要因が出てくる。最終的には加齢のせいということで片付けられ、次の夢にみんなの興味が移っていった。

年かぁ…妙にその場は納得したものの、就寝前に検索の続きを見てみる。年配の方に多い理由は——白黒テレビが脳に与える影響が大きく、その時の映像が…いやいや、自分カラーテレビ世代ですけど。えっ…「加齢は関係ないじゃん！」最近の夢も、もちろん白黒。

觸澤



手で話す世界

手話に興味を持ったのは高校生の時でした。

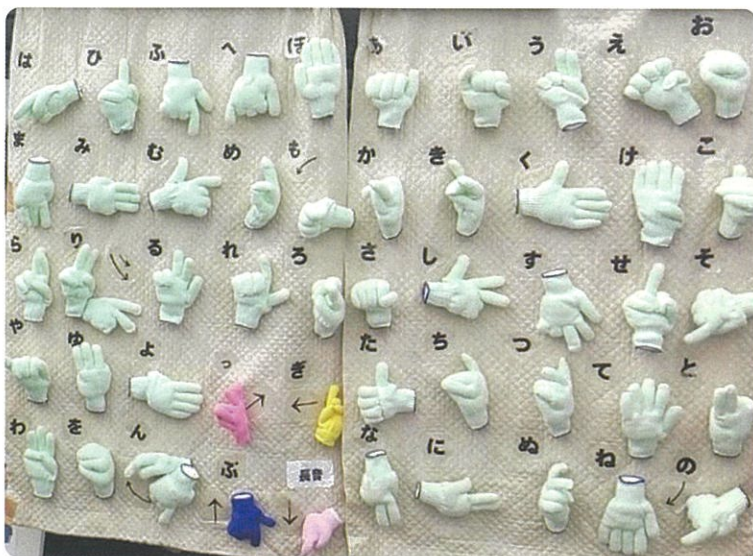
新しい事に挑戦するワクワク感、手話を覚える事の楽しさ、言いたい事をすぐに表せないもどかしさ、人前で失敗する恥ずかしさ、ろう者の文化を理解する難しさ・・・たくさんの思いを感じながら、手で話す世界は私の日常のとなりになりました。

手話は私達がいつも話している文法とは少し違います。話している言葉を耳で聞き、文法を変えて手話で表現し、聞こえない人達に伝えます。また、聞こえない人達の表す手話を、目で見て、相手の表情から汲み取った思いをたして声で表現し、聞こえる人達に伝えます。難しくもあり、面白くもあり、とても奥の深い言語です。

覚えられない事の方が多いのですが、たとえ手話をスムーズに使いこなせなくても、手話をやってみたい!と集う仲間達とのひと時が楽しく、心地良い充実感に包まれます。高齢の方や、お子さんと一緒に参加されている方など、いくつになってもどんな時でも挑戦する気持ちを持った方達ばかりです。

そんな素敵な笑顔に力をもらいながら、私の日常はこれからもきっと、手で話す世界ととなり同士です。

大藤



ザワメキアート展 2023 ルーツ オブ アーツ

12月9日～25日長野県立美術館にて開催されました。
たてしなホームから出展した3名の作家さんについて
作品とそのエピソードをお話したいと思います。



●吉田雅美さん

東京生まれ。令和元年の寒い時期にたてしなホームに入所されました。元々、読み書きが得意で絵を描く他に、普段から漢字ドリルを行っていました。吉田さんが朗読をするようになったきっかけは、好きな相撲の図鑑を読んでいる時だったと思います。「好きなお相撲さんは？」

「横綱はどの人？」と尋ねると、名前・出身地・相撲部屋など、その力士に関する情報を詳しく読み上げてくれました。始めは、ただコミュニケーションの一つとして片言に話す程度だったのですが、たまたま班室に

置いてあった短編エッセイ集を渡してみると、大変興味を持たれて朗読し始めました。吉田さんには『絵本作家になって、私らしく生きたい!』という夢があります。自身で絵本や紙芝居を製作していただき、施設の皆さんに読み聞かせをする活動もしていて、それが今に繋がっていると思います。作業中は周囲の

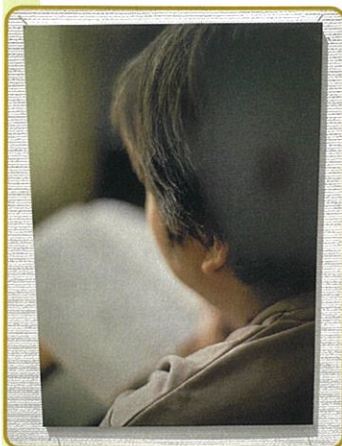
環境や他者の言動が気になる方の為、雑音を遮断するようヘッドホンを使って好きな音楽を聞きながら過ごしています。施設生活でも、たいていの時間は自身の居室で好きなテレビを観て過ごしていて、自分から進んで人に話をするタイプではありません。なので、こんなにたくさん吉田さんの声が聞けるこの時間が大好きです。

●齋藤匡広さん

平成29年10月にたてしなホームに入所されました。「こんにちは。」と入所当時から気さくに挨拶をしてくれて、コミュニケーション能力も高く、たまに冗談も話してくれます。当時、「危険物取扱免許の資格を取ります。」と参考書を熱心に読まれているので『何のために?』と少しドキドキしたのが印象的でした。日中活動は農林班に所属されて

いて、主に烏骨鶏の世話や、畑仕事を行っています。それ以外の活動として、月に一回陶芸クラブに参加しています。ものづくりを通して自由に自分を表現する活動を行っています。ある時、4・5人のグループで相撲の話しながら制作活動をしていました。齋藤さんはおっぴいの形の作品を制作されていたので『何を作っているの?』と尋ねると「御嶽海のおっぴいを作っています。」と答えてくれました。「え〜!」っと、みんなで爆笑しました。

全部大きさや形が違って、それぞれ違う力士のようです。なるほど!と目からうろこでした。その次の月にはお相撲さんのお尻を製作されていたので、齋藤さんの人と違った視点や発想はおもしろいな〜、と感心させられました。今後もどんな作品が生まれるのか楽しみです。



●宮崎義治さん

平成 28 年 2 月にたてしなホームに入所されました。始めの一年くらいは環境の変化で緊張していたせいかソワソワと落ち着きがなく、掲示物の紙を千切ったり、ずっと動いている印象でした。日中活動では工芸班に所属していて、宮崎さんと一緒に色々な作業を試みたのですが、宮崎さんが興味を持てる作業はあまりなく、私達も困っていました。その後、アセスメントなどを振り返って考察してみると、宮崎さんは『紙を千切ることが上手』ということに気がきました。新聞・広告・段ボール、何でも千切るのが上手です。思えば、それに気付けたのがこの

作品の始まりでした。せっかく上手に千切れたのに、千切った紙を捨ててしまうのはもったいない。紙きれをボンドで段ボールに貼ったり、その上から絵具で色を塗ってみたり、また剥がしたりと自由に制作していただきました。以前は掲示物など破いてしまい課題行動と思われていま

ましたが、今では『宮崎さんの作品ってすごいね』と、作品が高く評価されるようになりました。現在も制作活動をコツコツと続けていて、宮崎さんが活躍出来る場所ができて、ご家族の皆様も大変喜んでおられました。作業終わりに飲む缶コーヒーが至福の時間です。



今回の展覧会で、作家の皆さんの活躍は新聞に掲載して頂いたり、テレビで放映されたりと社会参加に繋がる大きな一歩となりました。これからも益々の発展と活躍を願っています。

小野・小池



利用者インタビュー!

今回は第 2 しらかばハイツにお住まいの
関 昭伸せき あきのぶさんにインタビューしてみました。

職員 「たてしなだよりに関さんのことを載せてもいいですか？」

関さん 「え～やだよ、はずかしいな。好きな食べ物とか言うだかい？」

職員 「やる気満々ですね！では、好きな食べ物は何ですか？」

関さん 「カレーかな」

職員 「好きな色は？」

関さん 「赤」

職員 「この前お誕生日でしたけど、おいくつになられたんですか？」

関さん 「66 歳。お父さんとお母さんが 84 歳で亡くなったから、そのくらいまで頑張らなきゃな。ハッハッハ。」

職員 「それなら、しらかば班で散歩も体操も頑張りましょう！！」

関さん 「そうだな。」

職員 「年末年始の帰省でやりたいことはありますか？」

関さん 「お兄さん、お姉さんとカツ丼食べにいきたいなあ。」

職員 「いけるといいですね。今年 1 年はどんな年でしたか？」

関さん 「いい年だったな。」

職員 「また来年もみんなでいい年にしましょうね！」



経過報告

10月

- 1日 陶芸クラブ・社協ゴミ拾い
- 2日～11月4日 水嶋クリニック作品展示
- 4日 川西日赤研修医来園
- 11日 大田区区分調査(来園)
- 12日 採血検査
- 14日 秋の作業・保護者来園日
- 17日 歯科検診
- 19日 「たてしな工房そら」実施
黒岩先生勉強会・オンブズ委員会開催
- 20日 災害対策視察のため都議会議員・
町議会議員・立科町職員来園
- 22日 余暇活動(DVD)
- 23～24日 農林班旅行
- 28日 ふれ愛むら・川西日赤病院祭参加
都社協災害対策委員会視察
- 29日 余暇活動(DVD)
- 30日 しらかば班旅行

11月

- 3日～5日 立科町文化展出展
- 6日～10日 信州短期大学生2名実習受入
- 7日 佐久ふくしネット
- 8日 高圧引込しや断器及び高圧ケーブル工事
- 9日 インフルエンザ予防接種
- 10日 インフルエンザ予防接種・
北区区分調査(来園)
- 12日 保護者来園日
- 15日 目黒区区分調査(来園)
- 16日 「たてしな工房そら」実施
- 25日 理事会・新型コロナウイルスワクチン接種
余暇活動(カラオケ)
- 26日 余暇活動(DVD)
- 30日 新型コロナウイルスワクチン接種

12月

- 2日 陶芸クラブ
- 4日 食事業者入札
- 7日 防火扉点検
- 9日 ザワメキアート展表彰
- 14日 保健所巡回指導
- 17日 余暇活動(絵本)
- 20日 正月飾りづくり
- 21日 「たてしな工房そら」実施・
オンブズ委員会開催
- 22日 クリスマス会
- 28日～1月5日 冬季帰省
- 30日 余暇活動(DVD)

RUN&らんらん広報誌 表紙画に鈴木謙さんが 入選されました。

鈴木さんは、月に1度、外部の先生に来園いただき絵画などの制作をする、「たてしな工房そら」によく参加しています。その時に描いた作品が選ばれました。図鑑を見ながら様々な色を使い、花の絵を描いています。RUN &らんらん令和6年：春号の表紙を飾る予定です。

電話番号が変わりました

新しい相談支援専用番号

0267-88-8469

(旧 050-3583-1920)

施設内の電話が光回線に切り替わりました。
他の番号に変更はございません。

感謝録

下記の皆様には、心温まる寄付金品をいただきました。厚くお礼申し上げます。
(順不同・敬称略)

東京善意銀行・羽場博直・萌芽会・(株)カクエイ住設・(株)コカ・コーラ・高橋光子・森田セシリア・伊佐岡忠・明治安田生命・就労継続支援B型事業所カラーズ・(株)藤友建設工業・島村悦子・多加谷大二郎

編集後記

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひします。寒さもまだまだ厳しくなる日々ですが皆さまどうお過ごしでしょうか？早く春が訪れないかと思うばかりの日々です。新年早々から地震があり何とも言えないスタートを切りましたが、きっとそういう時は大きな幸が来ると信じて過ごしております。利用者の皆様もまた保護者の皆様に会える日を楽しみに待っています。健康にはお気を付けてお過ごしください。 荻原